

みんなで作る

森ものがたい

2020年12月5日発行 第136号

油山自然観察の森
森を育てる会



〒811-1355
福岡市南区大字松原855-4
油山市民の森管理事務所内
TEL:092-871-6969
FAX:092-801-1463
<http://www.morikai.org/>
mail: aburayama@morikai.org



<10/4 アカマツ林 整備作業>

も	表紙	1
く	活動ノート(9/12, 9/27, 10/4, 10/17, 11/7, 11/21)	2~4
じ	特集「カブトムシの森 林床植生調査」	5~6
	油山のお仕事日記「たき火」	7
	「世話役から」(事務局)	7
	うん・えー会報告 (9/12)	8
	活動予定	8

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は(公財)福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。会では、随時、会員を募集しています。興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

活動ノート



9月12日(日)
備品管理 道具整備
12:40~14:30



◆参加者：8名
◆内容：今年度は、草刈りが必要な初夏初秋を見据えて年2回の道具整備の予定だったのですが、6月はコロナ禍で中止、9月予定の今回も、一旦は台風10号で延期となりました。この日も、朝は大雨注意報が出るような天候でしたが、午前中のうん・えー会の後、午後は作業に支障のない空模様となりました。まずは備品倉庫から作業場所のレクチャールームに、整備する道具と整備に使う用具（コロナ対策用の消毒液も）を運ぶのですが、ベテラン揃いのメンバーは段取りを説明するやいなや作業を開始。今回の主目的は、草刈りに活用するカマ、ハサミ類の研ぎ出し（中厚鎌12本、長柄鎌3本、剪定鋏20本、刈込鋏5本）。カマはグラインダーで荒研ぎした後、砥石で仕上げます。ハサミも砥石で一本一本丁寧に研ぎました。会員の3歳になるお子さんも、砥石を運んだり、整備用に汲み置きしたバケツの水に砥石を浸したり取り出したりと、お手伝いしてくれました。作業は皆さんの協力により、予定時刻より早く終了することができました。次回の草刈りで、

切れ味を確かめるのが楽しみです。

【ふりかえりより】

- ・刃物の研ぎが出来て、草刈り準備OKです。
- ・剪定鋏を研ぎました。研ぎ方がやや不安でしたが、少しは切れるようになったかな。

9月27日(日)

安全講習会

9:30~15:30

◆参加者：18名
◆内容：当日は夏の暑さも過ぎ去り、過ごしやすい天候と多くの参加者に恵まれました。座学では、森会の活動は常に危険と隣り合わせなので、安全に作業するための知識を皆が身につけて、お互いに注意しあいながら作業に取り組むことがなにより大事なことを確認しました。そして、特に大きなケガにつながりやすい伐木作業について、準備段階から受け口、追い口切り、伐倒後の枝払いや掛かり木処理の際の注意点など、安全に伐倒する為の手順について学びました。



質疑応答の後には、伐倒時のロープ掛けにも使うロープの結び方（「引き解け結び」や「もやい結び」）をみんなで練習しました。中々すんなりとはいかず、子どもたちも大人も皆四苦八苦しながらも楽しく学ぶことができました。また、ロープワーク後はベテラン会員直伝

の斜面の歩き方講座もあり、皆さんも納得といった表情で午前中の座学を終了しました。

午後はアカマツ林へ移動し、まずは講師より各道具の役割と使い方、使用上の注意点について説明がありました。特に大鎌、刈払機は周囲の人に十分注意が必要とのことでした。その後D地区に移動し、直径20cm超えのスタジイの除伐の実習です。木の重心の判断と伐倒方向の決め方、周囲の状況確認や足場と退避場所の確保といった基本事項の確認を行った後、経験の浅い会員を中心に受け口、追い口切りに挑戦。伐採前の準備作業をしっかりと行う大切や、斜面で水平に切る難しさ等を体感して頂けたと思います。

また、途中からはさらに2班に分かれて、1班はベテラン会員を中心にA地区階段下付近の直径18cmほどのサクラの木を、もう1班は子どもたちを中心に同じくA地区の直径10cmほどのサクラの木を伐採する実習を行い、見事に狙い通りの方向に伐倒できました。さらに、ベテランチームは、A地区階段下付近のヤマウルシとハゼノキ、長年懸案事項となっていた大きなスタジイのこれまた大きな横枝を高枝切りバサミを駆使して切り落としており、さすがでした。

その後、切り戻しと枝処理を行ったところで時間も来たため作業終了し、片付け、作業の振り返りをしました。その後センターに戻って道具整備後、解散となりました。なお、一部残った玉切り等の作業は後日の作業で実施予定です。

【ふりかえりより】

- 今日は初心にもどれてとても良かった。
- 立っている木を切るのが初めてで簡単そうだったけどむずかしかったです。



- 安全に伐木を行うため、今日教わったことをよく覚えておこうと思います。自分で受け口をつくるには練習が必要と思いました。

10月4日(日)
9:30~15:30
アカマツ林
(草刈り、萌芽枝切り)

◆参加者：10名

◆内容：ススキの穂や少し色づき始めた広葉樹に秋を感じる油山ですが、今日は爽やかな秋晴れの下とはいかず、曇りで気温も高め、風もなく、なかなか厳しい天候での作業となりました。

自然観察センター前に集合し、参加者全員が揃ったところで、予定通り9時半からその場でミーティング。その後炭焼き窯前に道具を運び、準備運動を行ってから、作業区域に移動しました。

今日の作業はA~F地区のうちA~Cの草刈りと萌芽枝切りです。A、B地区4名、C地区6名の2班に分かれ、水分補給してから作業に取り掛かりました。およそ半年ぶりの整備作業。草は伸び放題、萌芽枝も勢いを盛り返しています。アカマツ林、保護植物も丈の高い草に埋まって見えなくなっている状況でした。A、B地区ではまずは剪定鋏と中厚鎌で幼

木等を傷めないよう丁寧に周囲の草を除いていきました。手袋や衣服を通してチクチク刺さるトゲのある草に手こずる作業となりました。B地区奥の手ごわい場所は刈払機で刈りました。C地区にはシダ等の草、萌芽枝が一面に繁茂。遊歩道脇から下、埋まってしまっていた作業道に至るまでの斜面を長柄鎌や刈払機も使って、アカマツの幼木や保護植物を傷めないように注意を払いながら、上から下から広範囲に刈っていきました。硬く太い草、刈った後の塊、60度はあろうかという急斜面にも苦戦する作業となりました。



草に埋まっていたアカマツ幼木を見つけるごとにテープでマーキングしていったのですが、その数は30本以上にも。森を見渡し作業の振り返りをしながら、みんな疲れと達成感を味わっていました。刈り残した部分もありますが、それは次回として、今日の作業は予想以上に捗りました。みんなの力が合わさるとスゴイ！と感じる一日でした。

【ふりかえりより】

- 刈払機を満喫しました。疲れました。
- シダ類の刈り込みは結構手ごわかった。汗かきました。
- 少し残ったのが残念ですが、見事に刈られた風景は感無量です。

10月17日(土)
カブトムシの森
(草刈り、植生調査)
9:30~15:40

◆参加者：9名

◆内容：予報通り秋晴れとなっていて、楽しく作業することができました。越冬のため渡ってきたショウビタキの音が、子供広場辺りから聞こえていました。

センター前にて事前打ち合わせ、安全事項の確認、道具準備、準備体操をして、カブトムシの森休憩小屋へ向け出発。今日は先日追加購入した分と合わせて刈払機2台体制で作業することになり、A地区とB地区に分かれて使用しました。A地区は午前中1名が湿地上部から下部へ、午後は他の会員1名が残った部分から東側へ向けて刈っていきました。B地区は終日1名で西側斜面と遊歩道東側斜面を刈りました。他のメンバーはA地区で従来からの手道具による草刈りですが、主に長柄鎌、刈込鋏を使って効率よく、且つ保護植物を誤って刈らないように注意しながら作業しました。前回やり残した北西部分のササ等が繁っていた所と、南西入口からの遊歩道周辺とを綺麗に刈り取ることが出来ました。



これまで毎回刈り残しが多かったのが、今回刈払機を本格的に使用したことで、ほぼ所期の目標どおり刈ることが出来ました。特に湿地周辺がスッキリして、これまで目立たなかったコヤブデマリがすっきりと立っていたのは感動的でした。B地区の懸案だった西側斜面を一人で処理出来たことと併せて、刈払機は今後の作業でも活躍が大いに期待されます。

一方、植生調査班は昼食後に調査区の区画を張り、13時から調査開始。5m×5mの区画4つを調査し、調査方法は蕾、花、果実の付いている植物の種類と被度を調べました。

今回の調査では27種確認できました。今回、初めて出現した種類としてシソ科SP(不明種)が見られました。今回の調査区は夏の草刈りでササや草丈の高い種を除草していたので調査がしやすかったです。

【ふりかえりより】

・心配していた雨も上がり、素晴らしい秋晴れの中、草刈りを楽しみました。

・刈払機でかなり広範囲にA地区の草刈りができました。腰がイタイ。

・B地区西斜面を全て刈ることが出来満足です。刈払機を力任せに使い、その威力を実感！！

・良い運動していい汗かきました。

・午前、町内一斉清掃後、調査だけ参加させてもらいました。急に秋めいてきました。いつも半日だけの参加ですが(体力にあわせ)あたたかく迎えてもらいありがたいです。

・調査を続けてきたなかで少しずつであるが出現種が増えてきています。森の更新(全伐)が進み、林床が明るくなるとどんどん新しい種類が出現してくることが楽しみです。

11月7日(土)

カブトムシの森

(クヌギ伐採)

9:30~15:30

◆参加者: 4名

◆内容: 今後のクヌギ伐採を円滑に行えるように選木した、少し太目のもの2本と、楯木用の細いもの1本を伐採しました。

作業は9月27日の安全講習の復習ということで、ロープ掛け、安全作業5項目を実施した上で伐倒に臨みました。チェーンソー

を使うと、伐り始めから倒すまでがあっという間で一同感嘆しきりでした。



遊歩道に掛かった部分を処理して、後は現地でそのまま葉枯らしをして、2月のシイタケ菌駒打ちで利用します。

カブ森は萌芽更新に向けて待った無し。今後伐採を加速させねばならないので、草刈りに続いて伐倒でも機械化を検討する時期に来ているのかと思いました。問題は材処理作業と材の有効活用です。今後うん・えー会で話し合っていきましょう。

【ふりかえりより】

・作業途中で霧雨が降り出す中、クヌギ3本の伐倒に参加、ロープ掛けや切り口のマーキング等勉強出来ました。

・久しぶりの伐倒だったが、チェーンソーを使えば10分程度で倒せるのにビックリした。

11月21日(土)

アカマツ林(草刈り、萌芽枝切り、広葉樹除伐)

9:30~15:30



◆参加者: 10名

◆内容: 爽やかな秋晴れとなり絶好の作業日和のなか、草刈り・萌芽枝切り6名、広葉樹の除伐4名の2班に分かれて作業を行いました。いずれの作業も、日当たりを良くしてアカマツの実生を増やし、幼木を大きく育てることが目的です。また、来園者に気持

ちよく散策してもらうためでもあります。

草刈り・萌芽枝切りは急傾斜地のC・D地区と尾根沿いの遊歩道脇が作業エリア。午前中に前回の活動で刈り残したC地区の下部から中腹と作業道沿い、遊歩道脇を手鎌や刈払機で刈りました。午後からは2台目の刈払機を投入して、計画外だったD地区も刈り進みました。精力的な作業の結果、目立っていた背の高い草や萌芽枝もほぼなくなりスッキリしました。草に埋もれていた作業道もよみがえり、遊歩道も歩きやすくなりました。

一方の広葉樹の除伐はD地区。先ずアカメガシワ、リョウブの小灌木を伐ったあと、下部直径が30cm程のコナラの伐倒にかかりました。伐倒方向には保存樹のタムシバ、コシアブラがある為、その間隙を狙って倒す必要がありました。慎重に受け口の位置を決め作業開始。その結果、保存樹を傷めることなく見事狙い通りにコナラを倒し、枝処理をして午前中の作業を終了。午後は直径25cm程のクヌギを伐りました。追い口切りの位置が若干高めとなったぶん時間がかかりましたが、こちら狙い通りの方向に倒して枝処理まで完了。除伐により更に明るい空間になりました。

作業範囲が広く作業量が多かったことに加え、急斜面で足を踏ん張りながらの作業に、皆体力を使い切るほど疲れてしまいました。少し頑張り過ぎたかもしれませんが、その分達成感もあり、作業後に眺める景色に満足できた一日でした。遠望の宝満や三郡の山並みも見通しやすくなった気がします。

【ふりかえりより】

・久しぶりの活動でした。遊歩道もキレイにできましたし、斜面のシダもスッキリして、とても達成感のある1日でした。

「カブトムシの森 林床植生調査」

カブトムシの森のA地区では、保全活動が林床植生に与える影響を調べるために、林床植生調査を行っています。2015年度から年2回(春と夏)、あまり種が見られなかったため、2016年度から春と秋に行っています。

今年度は春(4月18日)、秋(10月17日)を予定していましたが4月中旬からコロナ禍のため活動自粛となり、春の調査は泣く泣く見送り、実施したのは秋の調査だけとなりました。

調査は、10m×10mの調査区を4つに分けて、5m×5mの区画4つ(調査区I~IV)で行いました。蕾・花・果実が見られる種を記録すると共にそれぞれの植物の被度の計測を行いました。

被度は、階級の大きい方から、5、4、3、2、1、+の5つに分けられます。

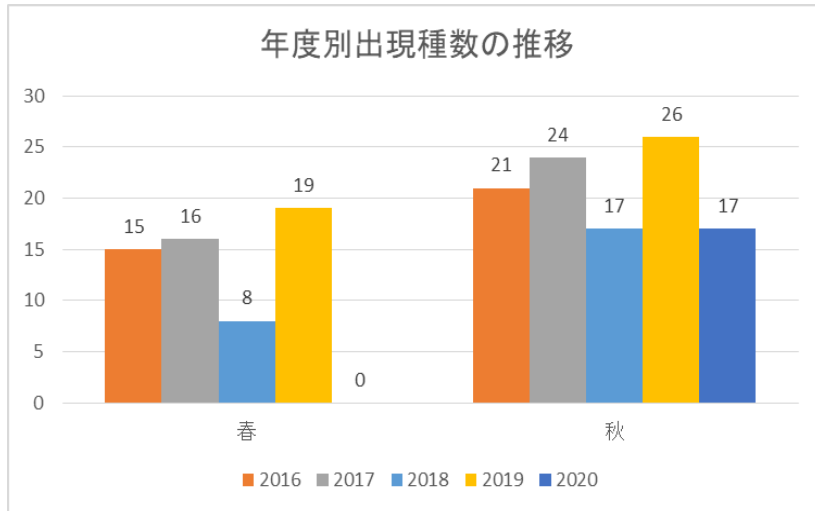
秋の調査表を次のページに示しています。

今年の秋の調査では、17種類を確認する事ができました。多くは、過去の調査で見られた種ですが過去4年の出現種数を比べて見ると微増ですが種数が増えていることが伺えます。

今年の秋の種数はグンと減りましたが1種だけ新しいシソ科のニガクサが加わりました。

昨年より種数が少ない原因は調査でカウントする対象が「蕾」「花」「果実」が見られる種だけであり、その年の気象条件に大きく左右されるためと思われます。

■過去4年の出現種数



カブトムシの森は、一斉伐採を行うなどの大きな攪乱を行わず徐々に伐採を進めてきたのに合わせて徐々に増加傾向にあるように見えます。

昨年より実施している新五ヶ年計画では、5年をかけてクヌギを全伐し、クヌギの更新とその他の植物種を多様化するための方策を検討・実施していきます。

調査の様子



今年初見の「ニガクサ」



カブトムシの森 林床植生調査

実施日： 2020/10/17

科名	種名	被度の階級値				形態
		区画 I	区画 II	区画 III	区画 iv	
イネ科	チヂミザサ	+	+	+	+	花・果実
フウロソウ科	ゲンノショウコ	+	+	+	+	果実
カヤツリグサ科	ナキリスゲ	+	+		+	果実
タデ科	ミズヒキ	+	+	+	+	果実
マメ科	ヌスビトハギ	+			+	果実
バラ科	ダイコンソウ	+	+			果実
イネ科	アシボソ	+	+	+	+	花・果実
ツユクサ科	ツユクサ	+	+		+	花・果実
マメ科	ヤブマメ	+			+	果実
タデ科	ハナタデ	+			+	花
ヒユ科	ヒカゲイノコズチ	+	+			果実
バラ科	フユイチゴ	+	+	+	+	果実
アカネ科	ヘクソカズラ	+				果実
キク科	ヨモギ	+	+		+	花
キク科	シュウブソウ		+	+	+	果実
シソ科	ツルニガクサ		+			果実
シソ科	ニガクサ				+	果実

被度階級の階級値	調査5m四方	
5	3/4以上	
4	1/2～3/4	
3	1/4～1/2	
2	1/4～1/10	
1	10%未満1%以上	1.6m四方
+	1%未満	0.5m四方未満

IV	III
I	II

油山のお仕事日記

「たき火」

油山市民の森・自然観察指導員 小川真樹

冬こそ森に出かけたい。静かだし、空気がきれいな気がするし。そんな季節におすすめな森の過ごし方が「たき火」です。今は気軽にできなくなりましたね。市民の森のキャンプ場の使い方として、これからおすすめしていきたいなと思っています。バーベキューのように準備も手間もいりません。ただしコーヒーを飲めると至福ですので、そのくらいの準備はしてみます。

- マッチライター
- インスタントコーヒー（スティックタイプが便利）
- コップ
- やかん

以上です。コーヒーは魔法瓶でいいやとなれば、もはやマッチだけでもOKですね。薪は現地調達が楽しいです。乾いた枯れ枝があちこち落ちてますので適当に拾って、着火の際にはよく燃える杉葉がベストです。キャンプ場は杉の林なので簡単にゲットできますよ。薪の組み方はいろいろな本にいろいろ書いてありますが、下から、杉葉→小枝→太い枝の順に積んでいけばだいたいOKです。コツはぎっちぎちのぎゅうぎゅうに積みこみ過ぎないことでしょうか。ふんわり積んでいけば、組み方は何でも良い気がします。そして着火です。基本的にはパタパタあおがなくても自然に火は大きくなります。大きくなりすぎないように消えてしまう原因は、枝が湿っている、ぎっちぎちに詰め込みすぎている、小枝が足りない、そんなところですね。あとはじっくり火と遊びましょう。薪をくべたり、湯を沸かしてコーヒー飲んだり。読書もいいですね。豊かな時間を過ごせます。薪拾いのためには4~5日お天気が続いた時にお越しください(^)/なお、キャンプ場は事前予約のうえ、ルールを守ってご利用くださいね。



「世話役から」

事務局 林 靖男

○森会入会

事務局について記する前に、私が入会した頃を振り返ってみました。

初参加は、2004年12月4日開催の「やってみよう、油山の森づくり」。参加者は私1名でした。その日に即入会。当時既に60才。まさに「60の手習い」。植物(樹木や花々)、鳥、蝶や動物等に関してはもとより、自然や森に関するも全くの未知。「何とかなるだろう♪♪」の心境でした。

○事務局の仕事の変遷

事務局の仕事の移り変わりについて、私が初めて担当させていただいた頃と、現在の仕事について記してみたいと思います。

○担当当初

2008年度から。事務局のメンバーは4人。入会してから僅か4年目にして何故か事務局を担当させていただくことになった。先述したように知らないことばかりの私にはどう考えても重すぎる仕事だ。しかし再び「何とかなるだろう♪♪」の心境でした。仕事の内容①うん・えー会の開催とMLリストによる報告(奇数月開催、年6回) ②会報「森ものがたり」の印刷、発送(全会員他へ紙での発送でした) ③会員関連一入会事務、ボランティア保険の手続き、ML管理 ④世話役活動の振り返り纏め(年1回) ⑤アンケート調査と纏め(年1回。会員の意見、要望等により森会としての方向を決めるために実施した) ⑥渉外一御指導をいただく各講師や各種団体との交渉 ⑦備品管理、薬品管理 ⑧各種調整

○時の流れと共に

担当してからはや12年が過ぎた。事務局のメンバーは私1人。仕事の内容も大きく変わった。前述の①(年4回になった) ③次年度の会員募集案内そして④が主な仕事。これ以外の仕事は他の会員の皆様に夫々分担担当していただいております。これからの森会の発展のために微力ながら尽力できれば・・・と思っています。



うん・え一会報告

2020年9月12日(土) 9:30~12:00

出席者—9名

1. 役割決定、資料確認

2. 7~9月 活動報告(詳細は、会報第135号参照)

- 7/5(日) カブ森作業
草刈り機の有効性が確認できた。安全管理が大切。
- 7/19(日) カブ森・草刈、昆虫調査
- 8/2(日) 削り馬体験会
- 8/16(日) 木工教室
参加人数が少なかった。
- 9/12(土) うん・え一会、備品管理
カマ、剪定鋏、刈込鋏など研いだ

3. 9~12月 活動予定

- 9/27(日) 安全講習会
- 10/4(日) アカマツ林作業
- 10/17(土) カブ森作業、植生調査
- 11/7(土) カブ森作業 シイタケコマうち楢木作り
- 11/21(土) アカマツ林作業
- 12/5(土) うん・え一会、椎茸コマ打ち(要日程調整)
- 12/13(日) 納会

新型コロナウイルス対策のため食事は作らない

4. その他

4-1 4~8月 活動実績報告 10人/回

4-2 刈払機について

追加で1台購入する

使用に際して一来園者への配慮。安全管理の徹底。

2人1組で作業する。

平日での特別活動としての作業実施案が出たが、現状通りとすることで決定した。

4-3 森会広報関連物に関する、個人情報保護について

① 会報「森ものがたり」の実名表記について

活動報告、うん・え一会報告、振り返り等の記事には、実名を載せない。

例外—特集&コラム執筆者名、編集担当者名については、本人の希望により記載。

② 会員のみを登録しているメーリングリストによる発信文書(本うん・え一会議事録等)は、実名を載せる。

4-4 森会広報関連物への希少生物関連の記載について
希少生物については、その保護のため公表しない。世話役が会員向け活動報告を書く段階で記載しない。

原稿の段階で、センター長がチェック。

4-5. コロナ対策—下記項目を実施する。

- ・入口で検温、手指の消毒
- ・道具は終了時に消毒
- ・個人で使う道具は終了時まで同一人使用とする。
- ・消毒液(スプレー)を購入する。

5. 発送作業 ①会報第135号

活動予定(2020年12月~)

★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行

〈うん・え一会〉〈勉強会〉は雨天決行

活動時間: 9:30集合 ~ 15:30解散

★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。

★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更になる場合があります。

★〈作業〉の標記のある日の服装は「森会スタイル」(長袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい服装)で参加ください。必要な持ち物は

いぼ付軍手・帽子・タオル・弁当・飲物・おやつ・筆記用具の他、必要に応じて着替え・雨具をご持参ください。

12月13日(日) 納会・アカマツ林作業

納会

カブトムシの森、アカマツ林にて今年の作業を振り返り、これからの作業に思いを巡らす

アカマツ林作業

新春の団体受入の作業の準備をします

1月10日(日) アカマツ林作業

D、E地区での広葉樹の除間伐及び作業道補修用材の確保を行います。

1月17日(日) カブトムシの森作業

除伐、草刈り、落ち葉掻きをします。

2月7日(日) アカマツ林幼木調査

B地区の調査区画での調査とA~Fの各区でマーキングしているアカマツ幼木の大きさなどを計測する調査を行います。

2月14日(日) カブトムシの森作業

シイタケ駒打ちをします。

3月7日(日) 総会(年度末うん・え一会)

当年度議題—活動実績報告、世話役振り返り、会計報告、次年度議題—役員、会員、活動、予算等の関連

3月21日(日) アカマツ林作業

D、E地区での広葉樹の除間伐及び作業道補修を行います。

油山自然観察の森 森を育てる会

会報『森ものがたり』 季刊

編集担当: 川上寛、西岡恵子、鎌田隆、静岡純、

松雪清人 印刷担当: 小川真樹
